

令和3年第2回定例会 一般会計予算・決算審査特別委員会（第1日目）
総務文教分科会審査記録

- 1 日 時 令和3年6月17日（木） 午前11時07分
- 2 場 所 市役所 第一委員会室
- 3 議 題 議第56号 令和3年度村上市一般会計補正予算（第4号）
- 4 出席委員（8名）

1番 渡 辺 昌 君	2番 木 村 貞 雄 君
3番 本 間 善 和 君	4番 高 田 晃 君
5番 佐 藤 重 陽 君	7番 河 村 幸 雄 君
8番 小 杉 武 仁 君	委員長 大 滝 国 吉 君
- 5 欠席委員
なし
- 6 傍聴議員（4名）

菅 井 晋 一 君	富 樫 雅 男 君	稲 葉 久 美 子 君
山 田 勉 君		
- 7 地方自治法第105条による出席者
議 長 三 田 敏 秋 君
- 8 オブザーバーとして出席した者
なし
- 9 説明のため出席した者

副 市 長	忠 聡 君
総 務 課 長	東 海 林 豊 君
同 課 参 事	小 川 智 也 君
同 課 人 事 管 理 室 長	大 滝 誓 生 君
同 課 危 機 管 理 室 長	大 滝 豊 君
同 課 危 機 管 理 室 副 参 事	須 貝 直 毅 君
企 画 財 政 課 長	大 滝 敏 文 君
同 課 企 画 政 策 室 長	田 中 和 仁 君
同 課 契 約 検 査 室 長	立 花 強 君
同 課 財 務 管 理 室 長	榎 本 治 生 君
自 治 振 興 課 長	板 垣 敏 幸 君
同 課 自 治 振 興 室 長	佐 藤 克 也 君
同 課 公 共 交 通 係 長	天 井 啓 喜 君
会 計 管 理 者 会 計 課 長	菅 原 明 君
消 防 長	佐 藤 正 弥 君
消 防 本 部 消 防 署 長	田 中 一 栄 君
消 防 本 部 総 務 課 長	小 林 精 司 君
選 管 ・ 監 査 事 務 局 長	木 村 俊 彦 君
荒 川 支 所 長	平 田 智 恵 子 君
神 林 支 所 長	加 藤 誠 一 君
朝 日 支 所 長	岩 沢 深 雪 君
山 北 支 所 長	齋 藤 一 浩 君

教 育 長	遠 藤 友 春 君
学 校 教 育 課 長	渡 辺 律 子 君
同 課 参 事	今 井 雅 仁 君
同 課 教 育 総 務 室 長	船 山 幸 文 君
生 涯 学 習 課 長	大 滝 寿 君
同 課 社 会 教 育 推 進 室 長	太 田 秀 哉 君
同 課 スポーツ推進黨長	倉 松 淳 志 君

10 議会事務局職員

局 長	長谷部 俊 一
次 長	内 山 治 夫

(午前11時07分)

特別委員長（大滝国吉君）開会を宣する。

○本特別委員会の審査については、本特別委員会に設置した総務文教分科会の所管事務について審査することとし、同分科会の審査については、分科会の会長には総務文教常任委員長が、副分科会長には総務文教常任副委員長が就任し、議事運営することとした。

分科会長（小杉武仁君）総務文教分科会の開会を宣する。

○本日の審査は、議第56号の総務文教分科会所管分について審査した後、議第56号の総務文教分科会所管分について賛否態度の取りまとめを行う。

日程第1 議第56号 令和3年度村上市一般会計補正予算（第4号）のうち本分科会所管分を議題とし、担当課長（企画財政課長 大滝敏文君、自治振興課長 板垣敏幸君、学校教育課長 渡辺律子君、総務課長 東海林 豊君、生涯学習課長 大滝 寿君）から説明を受けた後、質疑に入る。

歳入

第19款 繰入金

（説明）

企画財政課長 おはようございます。それでは、7、8Pを御覧ください。第19款繰入金であるが、地方創生応援基金からの繰入金600万円を新規計上するものである。今回の補正予算の歳出予算に追加でお願いしているが、14Pだが、村上市スケートパーク経費に計上した事業と当初この基金を活用しようとしていた既存事業について、当初予算編成上一般財源を充ててスタートしたわけであるけれども、今回の補正第4号で地方創生応援基金を取り崩し、一般会計に繰り入れ、充当しようとするものである。なお、信金中央金庫様からの寄附金1,000万円のうち令和2年度に160万円を充当し、残金840万円に一般財源60万円を加え、さきの3月定例会で900万円の地方創生応援基金の議決をいただき、今回基金から600万円を取り崩して繰り入れるものである。以上だ。

第20款 繰越金

(説明)

企画財政課長 続いて、第20款繰越金である。前年度繰越金に3,157万1,000円を追加するものである。以上である。

第21款 諸収入

(説明)

自治振興課長 続いて、21款6項6目雑入、1、総務雑入である。コミュニティ助成自治総合センター交付金ということで1,690万円の増額である。これは、一般財団法人自治総合センターに申請をしていた令和3年度コミュニティ助成事業の助成金交付決定通知が令和3年3月29日付で県からあったことから今回計上をするものである。以上だ。

歳入

第19款 繰入金、第20款 繰越金、第21款 諸収入

(質疑)

本間 善和 自治振興課長、支出のほうでもこれ出てくるわけだけれども、この交付金は多分どここの集落センターとか云々の建設とかというところに使われるのか。ちょっとその辺のところを詳細に教えてください。

自治振興課長 今回のこの内訳であるが、1つは一般コミュニティ助成事業ということで各自治会等が実施するコミュニティ事業についての補助金であって、これは2自治会、佐々木と宿田のほうで整備を行う集会施設のエアコンであるとかアルミ製のステージとか、そういうふうな備品関係を整備する事業がこの2自治会である。もう一つがコミュニティセンターの建設事業ということで、今回山北地区の北中集落のセンターを新築するというようなことでこちらのほうが採択になって、こちらのほうが1,160万円の助成が認められたものである。もう一つ、地域防災組織の育成事業ということで1件採択あって、こちら緑町1丁目の自主防災会、こちらについては発電機、ポンプ、投光器等を整備するというようなことで40万円の交付決定があったものである。以上だ。

本間 善和 分かったほうで結構だけれども、自主防災組織の緑町への40万円というのは、いろんな地区から自主防災組織の要望という格好で補助金というか、交付金というのか要望あって、宝くじ協会のやつとかいろんな格好で出していると思うのだけれども、この緑町のやつは、もう1発で当たったという格好なのか。何回もやっぱり申請して、順番待ちでやっと当たった、それとも1発で当たってしまったという格好なのだろうか。分かったほうで結構だ。

自治振興課長 今回のコミュニティ助成事業の防災で採択になった緑町の自主防災会については、このコミュニティ助成事業には3回目、3回申請があって、今回採択になったというような状況だ。

歳出

第2款 総務費

(説明)

総務 課長 予算書の10Pになる。2款総務費、総務管理費の一般管理費の本庁舎管理経費の工事請負費69万3,000円の追加である。こちらについては、この本庁舎の三之町側、ちょうど市場側になるが、そちらのほうに設置してある庁舎の受水槽があるが、そちら

に水漏れが見られるということが発見されたので、このたび工事費を追加いたして修理をしたいということである。

自治振興課長 同じく2款1項13目地域活性化推進費、1、協働のまちづくり推進事業経費であるが、1,690万円の増額であって、ただいま歳入でもご説明をいたしたコミュニティ助成自治総合センターの交付金、交付決定あったので、その分の歳出分を計上させていただきます。以上だ。

第9款 消防費

(説明)

総務 課長 次、14Pをお開きいただきたいと思う。9款消防費、災害対策費の補正である。1の防災対策一般経費であるが、このたび災害対策用といたして赤外線感知カメラを搭載したドローン1基を購入するための関連経費を追加するというものである。現在私どものほうには赤外線カメラのつかないドローン1基は保有しているが、搜索活動だったり、昨年もあったけれども、熊が出たときの対応ということでドローンを使っているけれども、なかなか草やぶとかに入った場合にそれが感知できないということもあって、このたび赤外線カメラを搭載したものを新たに購入したいということで追加をお願いするものである。それから、2の防災対策職員人件費であるが、4月中に市内における新型コロナウイルスの感染症の拡大に伴って、PCR検査をはじめとした対応に職員を動員して対応したことによって時間外手当が今後不足を生じる見込みということで、このたび追加をお願いするものである。以上である。

第10款 教育費

(説明)

生涯学習課長 それでは、その下になる10款5項2目保健体育施設費である。説明欄1番になるが、村上市スケートパーク経費である。先ほどの基金を活用した事業としてスケートパークの事業委託料でミドルの教室を追加でやらせていただく。また、そこに必要な備品ということで、機械器具の購入ということで本会議でも説明させていただいたが、マットの購入であったり、消耗品でボードの購入ということで予定している。以上だ。

第14款 予備費

(説明)

企画財政課長 それでは、14款予備費である。予備費9万4,000円については、端数調整のための補正を行うものである。以上である。

歳出

第2款 総務費

(質疑)

木村 貞雄 今ほど一般管理費の工事請負費の話聞いたのだけれども、これに関連して質問してもいいか。関連したことで聞いてもいいか、ほかのやつで。

小杉分科会長 どうぞ。

木村 貞雄 私一般質問で時間ないのでお聞きすることできなかったのだけれども、看板のことで、市長答弁では市民憲章とかの看板、それで、審議委員会で検討している・・・

小杉分科会長 関連性がない。ちょっと関連性が見当たらないので。
木村 貞雄 この管理費の中だ。それで、どういったメンバーとかと聞いているのだけれども、
いいか。
小杉分科会長 管理費と関連性ないよね。ちょっと関連性がないので、後で個別に聞いていただい
てよろしいか。
木村 貞雄 はい。
渡辺 昌 本来でいえば歳入で聞くべきだったのだけれども、関連してということで、コミュ
ニティ助成金、これ申請件数と申請した金額教えてもらえればありがたいけれども。
自治振興課長 今年度の申請の件数でよろしいか。全体の申請件数ということ。
(何事か呼ぶ者あり)
自治振興課長 すみません、ちょっと金額のほうの集計が出ていないのだが、申請件数でお知らせ
いたす。一般コミュニティ助成事業のほうは申請が16件あって、今回採択が2件だ。
それから、コミュニティセンターの建設事業については1件の申請で1件の採択で
ある。防災組織については、2件の申請で1件の採択というような状況である。な
お、すみません、先ほど私歳入の際に防災組織のところの町名を緑町1丁目と申し
上げたが、緑町2丁目の自主防災会の誤りだったので、併せて訂正させていただく。
以上だ。

第9款 消防費

(質 疑)

佐藤 重陽 実は9款というわけでもないのだけれども、俺もこれ聞くタイミング間違えたのか
もしれないけれども、9款もそうなのだけれども、10款でも同じことなので、9款
と10款のことを聞くことになるのかもしれないけれども、このドローンというのは
この補正予算で、要するに年度変わってからの計画として出てきたのかな。それと
も、それ前々からあったけれども、当初予算に上げられなくて、今出てきたものな
のかな。
総務 課長 昨年初めて私どもドローンということで1台、先ほど申し上げたようにそういう機
能のつかないドローンを購入させてもらった。研修を受けたりということで、結構
使い始めたの遅くなっていたのだが、それで当初はうちのほうこれでいけるだろ
うということだったのだが、実際先ほど申し上げたように熊の関係とか、現場に入
っていくとそういう目的で使うにはちょっとやっぱり機能が不足の部分があると。今
あるものについては災害だけではなくて、道路の例えば状況を調べたりとかで活用
はされているのだけれども、さらにやっぱりそういうものがこれから今熊もまた時
期になるので、必要だということで今回補正になってしまったというのが今までの
経緯である。
佐藤 重陽 分かった。次また。

第10款 教育費

(質 疑)

本間 善和 大変恐縮なのだけれども、スケートパークの事業委託料340万円、この事業の内容に
ついて、もう一度ちょっと詳しく教えていただきたいのだが。
生涯学習課長 事業委託料については、344万8,000円という部分については大会経費、要は2種目
分を見ているし、そのほかミドルクラスのスクールを開催したいと、その部分が年

間を通じてこれはご承認いただいた後、約38回教室を開くというようなことで予定している。その経費に充てたいということである。

本間 善和 そうすると、ちょっと確認だけれども、今までもスケートパークの当初予算でも事業経費というのか、委託料というのか、あったけれども、それとは別なもので発注、追加ではなく別なものでまたやりたいという格好での追加予算なのだね。

生涯学習課長 今まで既存の予定していたものプラス初心者スクールというような形でやっていたものプラスミドルクラスのスクーリングを年間を通じてやっていきたいということで上げさせていただいた。これはスケートボードの普及事業ということで基金の当初いただいた目的に沿った形での事業展開ということでやらせていただきたいということである。

本間 善和 一問一答なので、あれだが、そうすると当然今までの委託先、決まったのか決まらないか、当初予算の、それと同じところに契約すれば随意契約という格好で同じ業者が請け負うということだよな。

生涯学習課長 その辺具体化の予算づけされていないので、まだお答えすることというのはできないと思う。

本間 善和 当初予算に組んだ事業もまだどこにも委託していないと。

生涯学習課長 当初予算の部分については委託をしている。

本間 善和 そうすると、当初予算と食い違うということもあり得るといえる考え方なのか。当初予算の組んだ事業委託先というのはもう決まっているわけだよな、今の答弁では。それで、今回追加の事業を新たに組むと、ミドル級のこのランク上なのだから、そのやつは別業者になる可能性もあるということなのか。

生涯学習課長 まだはっきりどうだとかということはお答えできないけれども、要は特殊な部分の競技でもあるし、安全面も考え、ハイクラスということでもまた上の部分にもなるので、私どもとすれば、その辺も考慮した中でお願いするところになってくるかなというふうには思っている。

本間 善和 私、素人の考え方で大変恐縮なのだけれども、同じ場所でクラス、レベルの違うものが練習をさせてもらうとか、そういう大会を開くとかという格好になると、委託先というのは私は当然同じものが委託したほうがスムーズに行くのではないかなという感じがしたので聞いたわけなので、全く同じ施設の中に別業者が2つ入って、委託先が違ったという格好での、そういう問題が市民の皆さんに、それをご利用になる皆さんに問題が起きなければよいがなと、そういう心配で聞いたので、よくその辺のところは検討していただきたいと、そう思う。それはそれで結構だ。それから、続いて教育長にお伺いしたいと思う。教育長、教育長のたしかお話の中でどこかで私聞い・・・ちょっと度忘れしたのだけれども、スケートパークを使った子どもたちの教育というものを事業として組み込んでいきたいというお話がどこかで聞いたと思うのだけれども、そういう経費というものは、特にこのスケートパークで見なければならぬなんていう経費は出てこないのか。学校教育の教育部門のほうで、経費かかればそっちのほうで見るといえる考え方なのだろうか。

教 育 長 小学校体育支援事業という中で、昨年度も蒲萄スキー場閉鎖になったので、その分の総合型スポーツクラブに委託していたのだが、その経費の中で昨年度も実施した。今年度も予算組んであるので、その中で今年度水泳授業もできないこともあって、冬のスキーもちょっと見通しまだ分からないのだけれども、小学校の体育全体の中でスケートパークを活用した活動をしてほしいということで各学校には計画的に取

り組んでもらうということで予算化はされている。

木村 貞雄 この件で、財源のことで確認するけれども、信用金庫さんからいただいたものを基金として900万円のうちからこの600万円を繰り入れたということでしょうか。

企画財政課長 歳入で先ほど説明いたしたとおり、昨年160万円を充当している。残り840万円になったわけである。そこに一般財源を追加をして、900万円積立てをご議決いただいた。そのうち600万円を今回充当するというのである。

木村 貞雄 そうすると、残りが差し引くと300万円残っているわけだけれども、この会計のを見ると一般財源のほうも140万6,000円減額になっているわけだけれども、会計としてはこういう方針で正しいやり方なのだろうか。

企画財政課長 正しいやり方ということでご提案させていただいている。

木村 貞雄 それで、企画財政課長に伺うけれども、そうやって使っていくとゼロになっていくわけだけれども、今後基金をためるような考えはないのか。積立てするような考えはないのか。

企画財政課長 再生計画で事業を国から承認いただいている中身が決まっているので、目的に応じたやり方でやっていくということになるので、これを例えば一般財源投入してどんどん積み立てていくかどうか、そういった計画はない。

木村 貞雄 私言っているのは、それどんどん、どんどん積み立てるという意味でなくて、ゼロになっていくと何もなくなってしまいますので、少しぐらいを積立てということは考えないのかと言ったのだ。

小杉分科会長 性質上できないのではないかと。

企画財政課長 再生計画で事業期間、それから事業の中身が決まっているので、特にそういった予定はない。

佐藤 重陽 9款でもよかったのだけれども、スケートパークの事業に関して特にクレームがあるわけではないので、聞きたいのは補正予算に上げる予算の上げ方、事業の上げ方について実は確認したいのだけれども、これも今補正予算で上がってきているけれども、事業そのものが今になって提案されたことによって今補正予算と出してきたのか、補正予算の在り方が俺は違うのではないかなと思っているものだから、なぜ今補正予算の中でこの事業を出してきたのか、ちょっと教えてもらってもいいかな。

生涯学習課長 この事業自体は、今補正上げている部分というのが先ほどから言っているように企業版のふるさと応援基金を活用した事業となる。当初予算の部分では、当初からスケートボードの普及事業ということで初心者教室は上げていたけれども、当初予算の時点での寄附金という形ではなかったものだから、今3月に寄附金が入ったというようなことで、寄附金も普及事業に使ってほしいというような条件付きの寄附金であるので、その時点で今上げさせていただいて、年間を通じてできるようにしたいということである。

佐藤 重陽 分かった。これ3月の寄附だっけ、それでは当初予算に間に合わない。いや、私聞きたいのは、実は何聞きたいかということ、補正予算に上がってくる、要するに3月以外の当初予算以外に上がってくるものというのは、さっきのコミュニティ事業みたいに採択されていない690万円ついと、だからこれについて補正予算上げていくという考え方というのが普通一般的な補正だと思うのだけれども、だからそれ以外のものというのはある程度選んで、要するに今、今思いついたものではなくて、ずっと考えてきたもので、今それが予算づけされた金が国からの、県の支出金だ、交付金が出てきて、それができることになったというのだと分かるのだけれども、当

初に上げるものとやっぱり補正に上げるものというのはいよいよこれからは区別していく必要があるのではないかなど。というのは、でなければ当初予算の立て方自体が間違っていたのではないかと、当初の事業自体がおかしかったのではないかとということになるので、それを心配して今の質問に絡めてやろうと思ったのだけれども、言いたいのはそういうことだったので、だから答弁はそうすると総務課長か副市長あたりをお願いしたいと思うのだけれども、違うな、企画財政課長だか。だから、予算事業の上げ方、上げるタイミングというのを今後補正に上げるものと当初予算に上げるものというのはいよいよよくよく考えて出してもらわないと、当初予算の立て方が間違ったということになってしまうわけだから。

企画財政課長 その辺の予算の上げ方、これについては十分今委員おっしゃったようなことを踏まえて提案をしてまいりたいというふうに考えているところである。

本間 善和 聞き落としたことあって、課長、この新しく今やる事業の委託出して、そういう格好で事業をやったとき、収入というのは入ってくるのか。例えば使用料とか、そういうところの入会金とか、子どもたちが習うとかという、そういうものは。

生涯学習課長 今のところ、予定だけれども、1人当たりの参加費をいただくかなというふうには思っているが、ミドルクラスの教室であれば講師のお願いとかもする状況もあって、1人当たり500円程度を今予定している。事業の総枠の中でということなのだけれども、そのようなことで予定している。

本間 善和 ちょっと確認だけれども、そのお金というのは委託先に入るの、市に入るの。

生涯学習課長 委託先を予定している。

本間 善和 そうすると、例えばこの委託金という金額を見いだすときに今その収入というのはどのぐらい見込んでいるのか。そして、多分それを見込んだ数字で委託費というのが出てくると思うので。

生涯学習課長 ミドルクラスの教室であると1回当たり30人、見込みなのだけれども、予定していて、回数が38回、参加者数でいくと1,140人、延べになるが、それを予定してあって、参加費の単価500円とすると、57万円ほどを一応予定している。

本間 善和 どういう契約の仕方するのか私ちょっと詳細分らないけれども、例えばこの見込んだ金額が少なかったと、多かったと、多分これは見込みなので、当然出てくると思う。金額としては57万円だと、57万円が業者にたくさん入るかもしれないし、例えば人がいなくて半分になったと、30万円になったと、前後する数字だと思っただけけれども、そういうことを想定して契約するわけだから、違ったときはそれは契約上修正とか云々とか出てこないものなのか。契約の仕方だと思っただけけれども。

生涯学習課長 すみません、今ちょっと訂正させていただきたいが、参加費は市の収入として収入枠があるので、そこに入れさせていただくというようなことである。だから、当初の契約ではそれは要は加味した中で契約させていただきたいということである。

本間 善和 そうすると、当然新しい事業が出た場合、収入のほうでも57万円の増額の補正が出てきて当然だと思っただけけれども、企画財政課長、どうか。

企画財政課長 今のお話だとその分例えば追加になるのであれば、その分はしなければならぬかなというふうには。

本間 善和 支出はしている。そして、収入が上がってくる。市に入ってくる。当然収入のほうでも57万円の金額を収入で見込まなければならぬ。そうだね、課長。

小杉分科会長 室長のほう答弁どうか。室長のほうで詳しいこと。

社会教育推進室長 収入といたして、歳入のほうで当初の中でこの分も想定してちょっと考えたも

のだから、今回の補正では計上いたさなかった。

本間 善和 これはやっぱり支出だけ見て、入ってくるのを上げないと、あるのにこれは一体になるものだから、私は今回のところに、企画財政課長、上げるべき事項が漏れたという格好で、私はおかしいなと思うよ、これは。

(「会計上ね」と呼ぶ者あり)

本間 善和 会計上。だって、見込んでいることを数字上げているのだから、計算しているのも。まだ未定の数字ならばいいのだけれども、この344万8,000円、支出はこれで出す、それに伴って57万円の金額はもう計算されていると、収入として。市に入ってくる金だと。これは前後になってもいい、結果的に。でも、この収入に入らなければならぬと思うけれども、つきものなのだ。セット商品だ。

小杉分科会長 企画財政課長、答弁願います。休憩入れるか。

分科会長（小杉武仁君） 暫時休憩を宣する。

(午前 11 時 45 分)

分科会長（小杉武仁君） 再開を宣する。

(午後 0 時 58 分)

生涯学習課長 先ほどの収入の計上の件についてご説明させていただく。当初教室、スケートボード教室、初心者教室のみ開催するということが当初予算を上げていて、その中の参加者がミドルクラスの教室を開くことによってそちらのほうに移るというようなことから、移るということかというか、そういうことを想定して収入額、要は参加者対象について、基本的には予算の時点だけれども、増減がないものというふうに想定した中で歳出の部分の新しいミドルクラスの教室を開くという部分のみを計上させていただいたというふうなことである。なお、先ほどの想定としてどこに委託先というような話もあったけれども、ミドルクラスということになればなかなか技術的な高度な部分もあるので、委員の方想定されているようなところ、今の委託先を私どもも想定して、一応計画を練っているというような状況である。以上だ。

小杉分科会長 引き続き質疑を願います。

本間 善和 課長、結論的には当初予算で収入のほうは見ていたということをお願いするのだけれども、そういうことを言ってしまうと、当初予算が崩れてしまうのだ、私考え方として。当初予算でこういうことも収入で見込んでいるから、じき次の事業補正でこういうことが上がってくるし、そこで支出が出てくると、当初予算では今支出は見えないけれども、当初予算では今支出は見えないやつを収入は見ているのだという、はっきり言えばそういう、単直に言えばそういう説明だ。そういうことを言ってしまうと、当初予算ではそこまで説明もしていないし、当初予算の考え方がずれてしまうのだ。当初予算とはあくまでも支出があって、収入あると伴う予算書のつくり方なのだ。今出てきたからふっと湧いたような、そういう答弁はあまり私は好まないと思うのだけれども、企画財政課長、どうか。

小杉分科会長 企画財政課長。

本間 善和 もうちょっと企画財政課長のところに一緒に併せて、当初予算組むときにはやはり当初予算の組んだ収入にしようが支出にしようが説明をしているわけだ、ここで。そうだろう。だけれども、その説明のところ、ここでは支出は組んでいないけれ

ども、当初予算のとき、収入では見ているのだよというようなことの説明というのは絶対あり得ないのだ。あり得ないだろう。だから、そういう私はつじつま今合わせるための答弁はやっぱり控えたほう、考えたほうがいいのではないかなと思うのだけれども、いかがか。

企画財政課長 今生涯学習課長がご説明したとおり、当初はいわゆる初心者教室の歳入というふうなことで参加料ということを組み込んでいるということなのだけれども、今ミドルクラスに新たなクラスを開設をしようというふうなことで事業費を起こさせていただいた。対象者が当初初心者教室の方がやはりある程度レベルアップをしている方もいらっしゃるの、そういう方からミドルクラスに移る方もいるだろうというふうなことで、結果的に歳入の部分については影響が出てこないというふうなことで今回補正に上げなかったということであるので、ご理解をいただきたいと思う。

本間 善和 先ほど私いろんなことで聞いていたとき、初心者クラス、今契約終わっていると、私どこかは分からないと。それはいい、どこでも結構なのだけれども、今後新しく補正で上がったやつはこれから契約すると。業者は全くこれから入るものだから、私決まっていなくても結構だけれども、できれば初心者のほうと随意契約とか、そういう格好でもっていったほうがベターではないかと、そこまでさっきやり取りしたのだ。そういうやはり答弁をしておいて、最初からそういうことを考えていたという、つくったような答弁やめてください。後からくっつけた答弁だ、それは。さっきそういう答弁しているではないか。

副市長 私のほうからお答えを申し上げたいと思う。今の補正に上げたというのは昨年、年度末近くになって企業からのご寄附をいただいたということで、なかなか当初から予定できなかったと、当初予算に組むことができなかったということである。ただ、これまで初心者コースのプログラムはあったわけであるので、そこからそこを受講されている方々が新たに開設されるミドルクラスに移るという言葉はその後から出てくるわけであるので、なかなか先ほど佐藤委員からもご指摘あったけれども、当初予算に見込めない突発的なのというか、そういった状況がこのプログラムにはあったということでご理解をいただきたいというふうに思う。本来当初予算は、しっかりと積み上げの基にあるべきであるけれども、ご寄附をいただく、あるいは様々な変化があつて年度途中、当初ではあるけれども、こういった状況もあり得るといふこともぜひご理解をいただいて、今回の予算についてはよろしくお願ひしたいというふうに改めて申し上げたいと思う。

本間 善和 非常に私は、副市長、無理のある答弁だと思う。今までのこのやり取りをやっていて、あなたも中に、ここに座っていて、聞いていたと思う。担当課長に今までいろんな私質問をさせてもらった。今回のやつは、今までの当初予算に上げた初心者とは全く別の事業を新たにやりたいのだという格好で、財政的な裏づけも分かる。信金の積立金から入れているということで、それとはまた別個にやはり75万円という金額、数字まで出して、今補正で組んで、支出が340万円、収入が72万円だったか、一千何人かの人を増という格好で見込みたい。やることは非常に私いいと思う。そうしてやってもらいたいわけ。大いにスケートパークを使ってもらいたいと、だけれども、その答弁がさっきまでやっているのだと、またそこにだけ、私から言わせると、どうしてもそこだけくっつけなければならないという格好での後づけ答弁にしか聞こえないのだけれども、私はそれだったら、副市長、当初予算に覆すようなことはできないので、当初予算のところでこういうことも想定しているの、収入

のほうは一部余計見ていたのだよとか、こういうこのときは数字は入っていないけれども、72万円分ぐらいの数字は入っているのだかもしれないと、初心者のやつはここで見ているし、そのほかにミドル級、ランク上のやつは基金のやつを崩すものだから、支出にはまだ3月なものだから、入れられなかったのも、収入ではそういうのは数字が分からないけれども、今の時点では分からないけれども、そういうことも見込んだ収入を当初用に組んでいたのだよと、当初予算でやっぱり説明しなくては、そうすれば。私はそう思う。

教 育 長

まず、委託業者についてだけれども、先ほどまだ決まっていなかったのは、まだもちろん契約していないからこの場でお答えできないのだろうなということ、そういう答弁したのだと思う。ただ、初心者教室との関連もあるので、生涯学習課としては当然現在委託している業者に随意契約するという方向で考えているという前提だ。その上で、当初予算で組んである初心者教室、その時点では本当にまだミドルスクールの事業を計画していなかったのも、それを仮に2つに分けるとしたらミドルクラスの事業が新たに発生するので、事業は生じてくるので、今回新たに歳出のところでそれに関わる予算を盛り込ませていただいたということで、何とかご理解いただけないだろうか。

本間 善和

言っていることは、教育長、分かる。十分分かる。そこまで教育長もそうして言うのであれば、せめて当初予算のとき、こういうこの収入はそこまで見込んだ収入をしているのだと、やっぱり当初予算のときに説明すべきだと思うのだ。総務課長、どうだろうか。あなた担当していたはずだが。

総務 課長

ちょっとまだ説明の意図が伝わっていないのかなと思うけれども、今本間委員おっしゃっているのは、当初予算で、既に初心者教室をやっているわけだけれども、そこにミドルの教室をやる部分の収入をも見ていたのではないかと、今そういう話ですよ。そうではないのだ。そうではなくて、当初は初心者教室を今かなり私ども聞くと、去年からそういうお話はあるのだが、初心者教室は非常に人気で、かなりもう定員、定員というか、混雑しているということで、分けたいという意向は当初から、前から持っていたのだけれども、当初予算のときはなかなかそれかなわないということで、初心者教室を今のままやっていくという形の中で収入を見ていると、その事業に合う収入を見ているということなのだ。見ているのだが、それを今回はミドルクラスというのは新たな事業を起こして、初心者教室とミドル教室というのを2つ今度やりたいと。こっちの混雑を緩和していくので、こっちの収入は落ちていく、初心者は。さっき五十何万円ということで申し上げたけれども、そのくらいマックスでいくと想定されるのではないかとということなのだが、収入が見ていたときにこっちも減る、こっちは増えるということになるのだろうけれども、最初からそれを想定して見ているとか、そういうことでなくて、分けたことによって歳出は発生するけれども、歳入は大きな変化がないということで、今回は予算計上は歳入はしていませんという、そういう意図であるので、決して後からそういうつけたとかという説明ではないので、そこはご理解いただきたいと思う。

本間 善和

総務課長、言っていることは分かった。総額は変わらないと、はっきり言えば当初予算で組んでいたやつを2つに分けて、今こっちのほう、当初予算のやつを50%、例えば初心者で使った。だから、ミドル級でいえば上がってきたけれども、その50%残っているから、全体的には変わらないという説明だよ。

総務 課長

歳入はそういうことで、歳出はもう人数が変わらず経費かかる。教室起こすわけだ

から、今回もプラスしている。歳入は、最終的にいっぱい来てくれば、もちろん歳入増えるかもしれないが、今の段階、予算組む段階は財政のほうでは増をするまでは補正は必要ないという判断をして、今回は上げていないということでさっき確認できたので、これ特に間違ったとか、そういうことではないので。

本間 善和 できれば、あなたの説明はよく分かったので、例えば予算書を作るときの段階として、担当課から財政当局に上がって、総務課長は上がって、補正予算とかをつくっていくわけだけれども、そういうところの段階で、あなたはどの段階でこの内容を知ったか。今の内容を。あなたのほうで、財政のほうで今のこの支出に伴って、収入のほうはこういう格好で、今まで組んでいた中で動くのだよと、今の説明だ。どの段階で知ったのか。

総務 課長 私はさっき分かった、それは。申し訳ないけれども、議案の中で予算書の中身まで私ども総務担当ではチェックできないので、そこまではちょっと承知していなかったけれども、先ほどの説明確かに不十分なところあったので、確認をしたらそういうことだということはさっき確認できたので、特に問題はないということで確認した。

本間 善和 続いて、企画財政課長はどこの時点で知ったか、この内訳のやり方を。
企画財政課長 当然生涯学習課から予算要求が上がってきているので、その中で私ども予算担当ヒアリング等をしているので、その段階では中身は把握しているということである。

本間 善和 できれば、課長、その時点でもう分かっていたのなら、さっき私質疑、午前中やったときに即答してください、そのことを。そうしたら、こんな時間取らないのだ、昼からまで。そうだろう。あなたその答え分かっていたのだったら、実は予算書を上げるときに私は1か月前にもうこのことをチェックしたのだと、それで担当課のほうではこういう事情なので収入は上げなかったと、やっぱりそれ説明しなければ、どうだろうか。

企画財政課長 以後本当に気をつけるので、大変申し訳なかった。

佐藤 重陽 今回の件とは関係なく、スケートパークの予算のことでちょっと聞きたいのだけれども、これ結局では初心者とミドルと、と言ったけれども、ミドルの希望も多いからということで、では最終的には初心者、ミドルどれくらいずつの参加者というのだろうか、希望者を想定した。

生涯学習課長 ミドルクラスは、先ほど想定として1,140人の延べ、それから初心者に関してはそこからかなり落ちるので、1回当たり12人平均ぐらいかなというふうに思っていて、650人を今想定している。

佐藤 重陽 取りあえずそうすると初心者事業のときの予算って幾ら見ていたのだったっけ。

生涯学習課長 歳入で76万5,000円ほど予定してあった。

佐藤 重陽 初心者向けの事業費としては幾ら見ていたのだったっけ。

(「当初予算の」と呼ぶ者あり)

生涯学習課長 今予定している金額といたしては、委託事業費として259万6,000円ほど予定している。

佐藤 重陽 いや、今さらなのだけれども、そうすると合わせると500万円、600万円からの事業になるわけだから、340万円の259万円。500万円、600万円。そういう子どもたちの、また若い人たちのスポーツ振興のために市が応援していくのは大変結構なことだし、スポーツ振興のためにもなる、確かにそう思うのだけれども、ちょっと不公平感を感じるのだ、これ。ほかのスポーツにそれだけの目の目を当ててあげているの

かなと、いろんな競技がある中で、スケートパークを造ったせいであれを維持するために、あれの評価をよくするために、活用するために、利用者を増やすために、それはそれとして大事なことだと思うけれども、それにしても使う予算がどうもふっと思って、不公平感を感じるのだ。ほかのスポーツの子たちのことをこれだけ見てあげているのかなという気がしてならないのだ。体育館を使っている人、屋外スポーツをやっている人たち、非常に不公平感を今さらながら感じていなければならない、そんなことはないかな。

生涯学習課長 今委員おっしゃられていたスポーツ教室、スクールの件については、財源として企業型の寄附金を活用していて、企業がご寄附いただいた目的として、要はスケートボードの普及事業ということでの条件がついているので、そのお金を使わなければいけないというふうなことである。

佐藤 重陽 いや、課長の言いたいのは分かるのだけれども、そういうことだけの問題ではないわけだ。だって、今の寄附金の口座をつくったのは、市の要望の中で中央信用金庫というのか、信用金庫の金で、よし、では村上市の事業に応援していこうと、こうなったわけなので、村上市の考え方が前提にあるからこうなっているのよ。だから、やっぱり言いたいのは、これを悪いなという気はないのだけれども、ただほかのスポーツをやっている子どもたち、若い人たちもいるわけだし、指導者なんかもいろいろ苦勞してやっているわけだ。片や市の財源としてどんどん、どんどんつぎ込んで、優遇されるスポーツがあれば、非常に厳しい中で指導者手弁当で本当に苦勞して、毎週毎日、毎日ではないな、毎週指導しているような人たちがたくさんいるわけだ。ここにもその代表みたいな人が1人いるけれども、そういう指導者だとか、そういう子どもたちの受ける恩恵の差を考えると、今さらなのだけれども、ちょっと差があり過ぎるかなと思ったのだけれども、教育長、いかがです。

教育長 いや、確かに不平等といえれば不平等感も出てくるのだと思う。ただ、村上市スケートパークを建設したからには、やはり大事な拠点施設として有効活用を図っていかなければならないので、事業として今後ますます力を入れていかなければならない、ジュニア育成していかなければならない、世界に羽ばたく選手をつくっていかなければならない、裾野を広げなければならないということで事業を起こしている。ただ、やはり今委員言われたように、本当にいろんな外部指導者、スポーツ少年団の関係者等、あとほぼボランティアのような形で支援していただいているので、それは今後本当に中学校の部活動の休日移行もあるので、そういう問題の中で何とか予算化を図っていかなければならないと考えている。本当に支援してまいりたいと考えている。

佐藤 重陽 いや、この事業にクレームつける気はないので、あれなのだけれども、本当に実は総務文教の中で閉会中事務調査に各地区のスポーツ団体、何ていうのだけ。

(「総合ですか」と呼ぶ者あり)

佐藤 重陽 総合型スポーツクラブの方々に来ていただいて、その現状をいろいろ懇談させていただいたのだけれども、やっぱりその方々自体がもう苦勞しているわけだ。指導者を押さえておくのにやっぱり一番は財政的な問題だったけれども、財政的な問題でせつかく育った指導者がどんどん、どんどんお金になるところに移ってしまうと。いや、それは生涯学習課長も一緒にしてくれたので、聞いているはずだけれども、そんな苦勞をしているところがやっぱりあるわけなので、少しでも同じ村上でスポーツに触れようという人たちがスポーツの種類によって差があり過ぎるようなこと

河村 幸雄 2010年の教育費のスケートパーク、器具購入ということで安全マットの購入ということだった。特殊な競技でもあるので、けが等いろいろ、そんなことが考えられるのかなと思うが、けが、事故などによる緊急要請というのは年間どのくらいあるものだろうか。それくらい特殊な競技なのかなと私は思うので。

生涯学習課長 河村 幸雄 救急車の要請が昨年1回、今年度入ってもう一回あった。思ったよりそのくらいの数字で安心する。ただ、そこで対応の仕方、手当、ときには医師との連絡、そういうのは徹底されていると思うけれども、その辺の強化をしていただきたいと思う。それと、もう一つ、教育長が話した先ほどの水泳授業を実施しないことによるスケートパークの活用というような形であるけれども、この活用というのは大切なことだと私思う。先ほども不公平感なんていうような話もちよっとあったけれども、小学生に限らず、中学生も市民も運動向上のために、ときには健康増進のためにそこを利用させる事業、そんなことをどんどん取り入れていってもらいたい。言い方は悪いかもしれないけれども、スケートパークは何なのだ、市民も使えないところなのだからなんて言われたいことになっていくかと思うので、そういうような市民全体を健康増進であったり、そんな事業も取り入れてやっていただきたい。小学生の対応としてはもう本当にベストでいい話だと思うけれども、そこにそういうことを加えていってもらえればと思うので、よろしく願いいたす。

小杉分科会長 河村 幸雄 教育長 要望か、質疑か。

河村 幸雄 教育長 質疑で、すみません。小学生の体験事業は、学校体育支援事業ということで小学生の学校の体育授業に関して予算化されていることなので、今回は小学校4、5、6年生に活用していただきたいなと思っているところだ。あと、一般市民へのスケートパークの活用、奨励だけれども、これは初心者教室の中で、これは年齢を問うているものではないので、大いにアピールして、広報の充実も図っていかねばならないのだと思う。本当に多くの市民に利用していただきたいと考えている。そのための努力をいたす。

河村 幸雄 教育長 すみません、もう一つだけ。バランス感覚や体幹を鍛えるのも一つであるというふうな話をしていた。ここの会場でスケートボードをやらせるということだろうか。ほかのいろいろなものがあるけれども、そういうものを使いながら、体を鍛えていこうという考え方なのだろうか。

河村 幸雄 教育長 例えば50人くらいの子どもが来ると、それを3班に分けてボルダリング、それからスラックライン、そしてスケートボード、これを例えば30分単位でローテーションしていく、そのような活用のさせ方を昨年度冬にさせていただいた。今回も、それでも子どもたちの声を聞くと、やはりスケートボードが楽しかったという声が一番あったやに聞いているので、ウェートの置き方はそれぞれの学校で違ってくると思うのだけれども、子どもたち、先生方の声を聞きながら、工夫して教育に取り組みせたいと思っている。

河村 幸雄 教育長 子どもたちの声を聞いたということが本当に何よりありがたい話だし、そこが一番大切なことだと思う。よろしく願いいたす。以上だ。

木村 貞雄 教育長 この委託事業の予算の話、私も理解しづらいのだけれども、いうと課長答弁にもしっかり言ったのだけれども、当初参加料を委託先に金が入るというふうなことを聞いたのだけれども、今ほども答弁しているけれども、要するに当初予算はそういっ

た初心者教育のことを考えて、そしてその後ミドルクラスのこととも想定した歳出のほうは歳出でいいのだけれども、最初の歳入のほうの問題なのだけれども、そういった課長そのものが市のほうに参加料が入ってこない、そういう感覚で予算やっているのに、今聞くと当初予算は上げなくていいという、ちょっと分かりづらいのだけれども、もう一回はっきり答弁してもらいたいのだけれども。

生涯学習課長 私最初の発言は間違いだった。勘違いしていて、歳入に関しては市に入ると、それが当初の予算の中に盛り込まれている項目に上がっていると。ただ、先ほど総務課長のほうでも説明させていただいたけれども、当初のときには1つの初級のコースしかない、その中で歳入を見ていたと。ただ、今の新しくミドルの教室を開くことによって、当初予定していた方たちが動くと、ミドルに移るということで収入の部分の見込みは差異がそんなに出てこないだろうということでの計上になっているということまで理解している。

渡辺 昌 事業委託料の中に、説明の中に大会経費2回分とあった。今年は平野選手出場するオリンピックもあるし、スケートパークの知名度向上とか愛好者を増やすにはやはり大会の開催というのは重要だなと思うのだけれども、大会2回分の時期とか名称とか参加者のレベルとか、その辺の詳細分かったら教えてください。

生涯学習課長 大会は2種目、一応要はストリートとパークと2種目を予定している。ただ、一応審判団とかを呼ぶような予定もあるし、これが2つの大会の総額で67万5,800円ほど予定している。詳しくはスポーツ推進室長にお願いします。

スポーツ推進室長 大会の詳細についてはまだちょっと未定であって、昨年は一応パークとストリートという2種目で開催している。昨年はコロナ禍の中ということで、新潟県内の方を対象にやらせてもらったけれども、ちょっとこの大会の内容についてはまた今後契約後中身を詰めて、開催をしていきたいというふうに考えている。

渡辺 昌 時期的にはいつ頃考えているのだろうか。

スポーツ推進室長 時期についても、オリ・パラもあるというふうなことで、ちょっと時期については秋以降検討していきたいというふうに考えている。

高田 晃 午前中で終われば質問しないつもりだったのだが、今佐藤委員も、私この予算書見てちょっと違和感持ったのがこの事業費の額だったのだ。私の言いたいのは全部佐藤委員代弁してくれたが、もう少しこの事業費の関係で、いわゆるミドルのスクールをやるということだが、30人ぐらい想定していると。そこには委託先もほぼ同業者者だということなのだが、1回の教室のときには何人ぐらいインストラクターというか、指導者がつくものか。

スポーツ推進室長 ミドルの教室については、講師3名、助手2人というふうなことで予定している。

高田 晃 もう一回、講師2人と助手が3人で。

スポーツ推進室長 一応5名という想定をしている。

高田 晃 分かった。教室で5人のインストラクターがいるということなので、当然このぐらいの額にはなるのかなというふうに思うが、これ前のジュニアのときからもそうだと思うのだけれども、やっぱりほかの競技、あるいはほかの団体等々があまりにも格差のあるような対応の仕方はいかななものかなというふうな感じはする。それはさておいて、今競技力向上の面で初心者から、そして技術向上した人たちをミドルに上げてということで、どんどん子どもたちがいわゆる平野歩夢に続けということまでトップ選手を目指しているわけだが、この次の段階のミドルの次の段階、もう少

し上級のということも計画の中には上げているものか。

スポーツ推進室長 トップアスリートの育成スクールというふうな形で計画はしている。同じくパークとストリートというふうな2種目に分けて、昨年からやっている。

高田 晃 ありがとうございます。もう一つ、競技力の面はこれでいろんなスクールを通じながら、村上市内外の子どもたちがここで励んでいるということでもいいのだが、もう一方、これ渡辺委員もちょっとさっき言ったけれども、今平野歩夢君が東京オリンピック出場内定という段階だ。彼多分日本人では冬季2つの種目というのは初めてだと思うので、この機会にぜひ今度はスケートパークの宣伝効果として、歩夢君のオリンピック出場内定を何とか生かした企画、事業ができないかなというふうに思っているが、これは担当課でもいいし、副市長でもいいし、ちょっとそういった構想みたいなのを、まだ企画段階でもいいが、歩夢君のオリンピック内定に関してのスケートパークとの相乗効果を狙った事業みたいなのも練っているのかどうか。

生涯学習課長 まだ本決まりではなくて、平野選手に関しては多分今の予定ですと7月の1日に正式発表になるかというような話でお伺いしている。スケートパークと、本来であれば当然市の出身であるし、その辺ももう十分考えていかなければいけないところだし、私どももぜひその部分を活用というか、させていただきたいなというふうには思っているが、平野選手自身がプロ契約等でのいろんな制限もあるので、その辺は今後いろいろな形で検討しながら協議させていただきたいなというふうには思っている。

高田 晃 よろしく願います。

小杉分科会長 すみません、ちょっと参考までに教えていただきたいのだけれども、今関連している話で、平野歩夢君はじめ平野海祝君、大変世界でも活躍されているのは私たち承知の上なのだが、その他のジュニア選手、育成に取り組んでいただいているが、上村海音ちゃんはじめ阿部君はじめ何人ぐらいの方が世界での大会、活躍されているかというのは把握されている。

生涯学習課長 すみません、正確にどこまでというのが今はちょっとないのだが、今おっしゃられていた方たちは今までも市のほう賞とかを受けていたりとかするので、その方たちが順調に伸びていただければいいかなというふうには思っている。

小杉分科会長 ハイレベルな、ミドルクラスですか、ジュニアアスリートまでつなげていこうというのであれば、全日本選手権であったりとか、世界大会であったりとか、ヨーロッパの大会でも活躍されている方いるけれども、その辺の選手の把握であったり、また他市、他県から来られて、ここで練習されている方もいらっしゃるの、その辺の把握もやっぱりするべきなのではないかなと思うけれども、いかがか。

生涯学習課長 そのとおりである。その方たちにこの場所を使っただけのように私どもも働きかけをしていきたいなというふうに思っている。

第14款 予備費

(質 疑)

(「なし」と呼ぶ者あり)

【自由討議】

本間 善和 先ほどの私の質問で長時間皆さんのことを、委員の皆さんもそうだし、理事者の皆さんも長時間この席に置いたということで大変恐縮なのだが、自由討議なので、私

の思いをちょっと話させてもらおう。冒頭に言うけれども、予算書に決して賛成してないということではないので、参考に聞いていただきたいと思う。私も行政のOBとして、こういう予算書の制作に携わったこともある。いろんな課を渡ってきて、いろんな課の中の予算書も作った、若いときから。そういう中で、常に予算書というのは議会を通さなければならないのだということで、細心の注意をして作ったつもりである。そして、私の上司、また上の上司、特に最終的には市長だ。特にこういう新しい事業をやる、非常に注目をもって予算書のチェックというものをしていくはずだ。そして、まして財源が昨年度信金からいただいた基金である。寄附金だ。それを財源に充てているということで、事業の結果にも注目しなければならないし、成果ということで、やはりそういう予算書を作っていく。今回のこの予算を計上するに当たっての、私はチェック機能というのだから、危機管理というのだから、そういうものが欠けていたのではないかと思うのだ。なれなれで予算書を上げてきたのではないかと。本当はこういう新しいもの、そして財源が600万円基金を取り崩して入れているのだと、そういうものを使うのだから、この事業は特別もう要注意をしなければならないと、やはり私はトップとあるものはそういうチェックをするのが当然だと思うのだ。そして、先ほどの総務課長の答弁、私は理解する、そう答弁すれば。私先ほど質問して、その答弁をいきなりぽんと言え、あと再質問しない。やはりそういうものが欠けていたのではないかと、そういう機能が。これは、私全てのやはり職員、特にこのぐらいの補正予算上げる段階であれば、落としのないように上げてもらいたいし、皆さんが十分内容を熟知して、どんな質問を受けてもぽんと答えられると、私はそれが当然だと思うのだ。そのところがちょっと欠けていたのではないかと、私はそう思った。全体的な皆さんだけこんな長時間に渡っててもらったという恐縮なので、私の思いで申し訳ないけれども、自由討議という時間なので、時間を使わせて、思いを話させてもらった。以上である。

小杉分科会長
高田 晃

今の意見について、他の委員から発言があれば。

自由討議なので、いろいろ意見を求められているということで、今本間委員が言った、ちょっと厳しい意見だが、そのとおりだと私も思っている。私も経験者なので、同感である。ここの委員会で説明する上で、どうしてもやっぱり新たな課長が来たり新たな係長が来たりということで今回の説明にちょっとぎくしゃくしたような部分があったので、その辺だけは以後気をつけてもらいたいなというふうに、私も同じ意見だ。

小杉分科会長 ほかにご意見。
（「なし」と呼ぶ者あり）

小杉分科会長 本間委員、どうだろう。理事者のほうからも意見求めましょうか。よろしいか。
（「はい」と呼ぶ者あり）

【賛否態度の発言】

（「なし」と呼ぶ者あり）

以上で質疑、自由討議を終結し、賛否態度の発言を求めたが賛否態度の発言なく、起立による賛否態度の取りまとめを行った結果、議第56号のうち総務文教分科会所管分については、起立全員にて原案のとおり可決すべきものと態度を決定した。

分科会長（小杉武仁君）閉会を宣する。
（午後 1時45分）